

文翔館室内楽シリーズ Vol.3

～ Music from Bun-Sho-Kan ～

仙台ファイル／山響メンバーによる  
珠玉の弦楽六重奏曲

山形交響楽団

Vn 犬伏 亜里 Vn ヤンネ館野  
Va 成田 寛 Vc 小川 和久

仙台フィルハーモニー管弦楽団

Va 井野邊大輔 Vc 三宅 進

11.12<sup>2017</sup>  
[日]

14:00開演 (13:30開場)

文翔館議場ホール

山形県郷土館 (山形市旅籠町 3-4-51)

曲目

ブラームス：弦楽六重奏曲 第1番 変ロ長調  
ドヴォルザーク：弦楽六重奏曲 イ長調

※演奏曲はやむを得ない事情で変更になる場合があります。

入場料

一般 3,500 円 (当日4,000円)  
学生 1,500 円 (当日2,000円)

2018年度3回公演予定

Vol.4 クァルテット エクセルシオ

2018年5月13日(日)  
スメタナ 弦楽四重奏第1番 我が生涯より 他

Vol.5 ヤンネ館野率いる、バロック&タンゴバンド

2018年7月8日(日)  
ヴィヴァルディとピアソラ 2つの四季 他

Vol.6 プレシヤス カルテット

2018年10月21日(日)  
ベートーヴェン 弦楽四重奏曲第15番 他

◆チケット取り扱い 富岡本店・辻楽器店

◆チケット/文翔館室内楽シリーズへのお問合せ  
室内楽文化交流振興会

事務局：〒990-0055 山形市相生町 3-36 長澤 清美 気付 TEL 023-642-2488 (TEL&FAX)  
代表：高坂 知節 takasaka@ad.cyberhome.ne.jp TEL 090-3128-0370  
庶務：大内 勝利 deikatz@docomo.ne.jp TEL 090-1066-4646

主催：文翔館室内楽シリーズ実行委員会 主管：室内楽文化交流振興会  
認定：公益財団法人 企業メセナ協議会  
後援：山形市、公益社団法人 山形交響楽協会、公益財団法人 山形県生涯学習文化財団

## ブラームス 弦楽六重奏曲 第1番 変ロ長調

作品18の番号が示す通り、曲が完成した1860年はブラームス27歳で、彼の青春期と言える時期の作品です。生涯独身を通じたブラームスでしたが、曲が出来上がる直前には、婚約までした女性がおりました。その名は、アガータ・フォン・ジーボルト。彼女との別離から日も浅く、この曲にはアガータとの思い出が、熱い青春の余韻とともに描かれていることは、想像に難くありません。1958年のフランス映画『恋人たち』で、この第2楽章が使われて有名になりました。映画の監督はルイ・マルで、撮影当時は26歳。2人とも若くして才能を発揮して後世に名を残しました。

## ドヴォルザーク 弦楽六重奏曲 イ長調

ブラームスの第1番から18年後の1878年にドヴォルザークは彼の弦楽六重奏曲を完成させました。彼の六重奏曲はこの1曲だけです。一般的に「室内楽」と呼ばれる種類は数多いですが、弦楽六重奏曲は決してその曲は多いとは言えません。弦楽三重奏曲を2倍にした編成、あるいは弦楽四重奏曲にヴィオラとチェロをそれぞれ1人ずつ足した編成となりますが、中低域が充実する豊かな響きが特長となります。ドヴォルザークは中でもヴィオラを活躍させ、ボヘミアの民族舞曲を織りまぜながら、親しみやすい魅力ある楽曲に仕上げました。

## Profile



### ヤンネ 館野 <ヴァイオリン>

フィンランド生まれ。ヘルシンキ音楽院にてシルッカ・クーラ、オルガ・パルホメニコ、シカゴ芸術音楽院にて森悠子の各氏に師事。2011年東京文化会館でのリサイタル、2012年山形交響楽団との共演、2015年ヘルシンキでのW.ケンプのコンチェルト演奏はいずれも好評を博す。現在横浜に在住し、ラ・テンペスタ室内管弦楽団

(ヘルシンキ)のコンサートマスター兼音楽監督、山形交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者、森悠子主宰長岡京アンサンブルやアルゼンチンタンゴグループでの演奏などソロ、室内楽、オーケストラ奏者として、フィンランドと日本、2つの祖国にて幅広く活躍。



### 犬伏 亜里 <ヴァイオリン>

東京生まれ。4歳からピアノ、5歳からヴァイオリンを始める。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部を卒業後ドイツへ留学、国立ケルン音楽大学を卒業。1996年にコンサートマスターとして山形交響楽団に入団し、2012年4月より同楽団の首席コンサートマスター。山響定期ではソリストを務めるなど、ソロ、室内楽の分野でも幅広く活動している。山形チェン

バーミュージシャンズメンバー。全日本学生音楽コンクール東京大会第3位、日本モーツァルト音楽コンクール第2位。ヴァイオリンを西川重三、故宗倫安、辰巳明子、サシコ・ガヴリロフの各氏に、室内楽を原田幸一郎、岩崎淑、プリモス・ノヴシャックの各氏に師事。



### 成田 寛 <ヴィオラ>

1986年より新日本フィルに約10年間在籍。その間2度にわたりオランダデン・ハーグ王立音楽院に留学、V.メンデルスゾーン氏に師事。その後、新星日響の首席奏者に就任、東京フィルハーモニーとの合併後2003年まで務め、現在は山形交響楽団契約首席ヴィオラ奏者を務めている。

また、鈴木秀美、若松夏美、寺神戸亮、有田正広、L・コッポラ、S・ホッホランドの各氏等との室内楽での共演、楽遊会弦楽四重奏団やオーケストラ・リベラ・クラシカ、パッサ・コレギウム・ジャパン等のメンバーとして、オリジナル楽器奏者としても幅広い活動をしている。



### 井野邊 大輔 <ヴィオラ>

1991年満場一致を以てNHK交響楽団入団。第68回日本音楽コンクール作曲部門委員会特別賞受賞。霧島国際音楽祭等数々の音楽祭やベルリンフィル演奏会、ロンドンフィル及びBBC響メンバーによるツアーに参加。国内外の客演首席奏者やソリストとしても活躍。M.ペレーニ、D.ゲーデ(元ウィーンフィル)、T.ハッチンス各氏ほか、海外の演奏家との共演も多い。特に室内楽

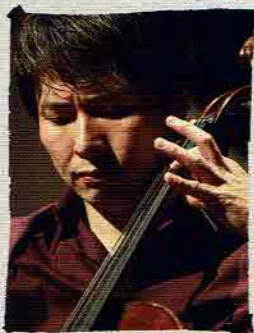
では共演した演奏家より厚い信頼を受け続ける実力派ヴィオリスト。2013年NHK交響楽団を離職後、2014年より仙台フィルハーモニー管弦楽団ヴィオラ・ソロ首席。2015年より大阪フィルハーモニー交響楽団特別契約首席を兼任する。



### 小川 和久 <チェロ>

11歳よりチェロを始める。桐朋学園女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部を卒業し、フランス国立ポルドー音楽院へ留学。首席で卒業し、ポルドー市栄誉賞を受賞した。2000年には第4回「若手奏者のためのコンペティション」(現・名古屋国際音楽コンクール)ソロ部門にて優勝。国立ポルドーオペラ座、ラムルー管弦楽団と特別契約を結び共演したほか、現代音楽

グループ「Csellox, TACLOA」を結成。2011年から山形交響楽団の首席奏者に就任したほか、プレシヤス・カルテット、長岡京室内アンサンブルなど、ソロ、室内でも幅広く活躍している。チェロ・ロックトリオカンターナメンバー。



### 三宅 進 <チェロ>

桐朋学園、インディアナ大学にてヤーノシュ・シュタルケル、木越洋、安田謙一郎の諸氏の薫陶を受ける。新ヴィヴァルディ合奏団、群馬交響楽団首席チェロ奏者、イソ弦楽四重奏団チェリストを歴任。現在はソリストとしてリサイタル、室内楽等のほか、世界的

外来アーティストとの共演など幅広い分野で活躍している。海外での公演も多く、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、各地でのリサイタル、オケの共演など高い評価を受けている。公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団ソロ首席奏者。武蔵野音楽大学非常勤講師。音楽監督を務める仙台市宮城野区文化センター主催の室内楽シリーズ「Music From PaToNa」が、2015年第4回サントリー&ウィーンフィル音楽復興祈念賞を受賞。